

保育かながわ

発行所

横浜市神奈川区沢渡4の2

一般社団法人

神奈川県保育会

発行人

萩原敬三

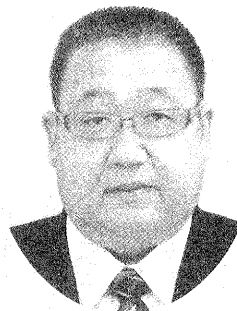
題字

故内山岩太郎筆

理事長就任あいさつ

一般社団法人神奈川県保育会

理事長 萩原敬三



この度、一般社団法人神奈川県保育会の役員任期満了に伴い、平成二十四年四月二十八日に行われました「神奈川県保育会総会」におきまして、新理事長に就任いたしました萩原敬三でございます。まだまだ若輩者ではございますが、前理事長同様にお引き立ていただけますようよろしくお願い申し上げます。

前理事長からの引き継ぎを行いました中で、神奈川県からの保育会への補助金見直しや保育所における保育所機能強化費の見直しなどの削減案が提示されておりますことや、最低基準の条例化の問題等が解決されずにあります。また、

保育士会における脱会問題等につきましても大切な問題として、理事会や企画運営委員会等において、各市町村の状況を皆様方からのご意見として把握し、一つひとつを着実に解決していかなければならないと考えるところでございます。国・県・市町村において財政の危機にありますが、財源がないなどの理由で補助金や事業を縮小するのではなく、財源がないならばないなりに、行政・現場がもつと考えを出し合うことが必然ではないのでしょうか。

このことから、地域主権においては、市町村に権限等が移るから都道府県は知らないではなく、市町村の責務において実施する事業が行えるよう、都道府県は推進・調整役を担わなければならないと考えます。そこで、組織の強化をしなければならないと考え、

新たに民間部会や青年部会、保育士部会を組織の傘の中に入れました。

次に、国におきまして「社会保障制度と税の一体改革」による三党の調整会議が進められて、総合こども園は撤回され、認定子ども園の拡充に変わりました。この問題の始まりは、自民党政権下で幼・保一元化の中、待機児童を解消する目的で「認定子ども園」が出されましたが、国政選挙により自民党が大敗北し、民主党政権に移りました。その中で、二重行政はいらないだとか、地域主権問題等により、認定子ども園制度の議論が止まったような「総合こども園」制度論に始まり、いつの間にか、財政問題等の議論になってしまったようです。新聞やテレビのニュースを見ていて、総合こども園論議に疲れてしまった方も多いと拝察いた

します。約六年間の議論が、大臣の「待機児童解消のためなら総合こども園ではなくても良い」の一言と笑顔で、済まされることなのでしょうか。

このようなふらつきを見せられている「保育諸制度」はどうなってしまうのでしょうか。昔から、「子育ての基本は時代がどう変わろうと変わるものではない」とか、「福祉に前進はあっても後退はない」と言い伝えられました。このことを忘れるというのでしょうか。私も現場において進むべき道は「チャイルドフアーストの原理」であると考えます。しかしながら、わが保育園で遊んでいる子どもたちは無邪気なもので、子どもたちの話し声や笑い声が風のように過ぎそうな日々が、すべてを忘れさせてくれそうです。最後になりますが、県保育会の一層の発展にご尽力を賜り、皆様方のご健勝を祈念申し上げますが、理事長就任のあいさつとさせていただきます。

八年を振り返って

一般社団法人神奈川県保育会

顧問 都 築 融 光



会員の皆様には陰に陽に長い間お力添えをいただきありがとうございます。良くて悪くても四期八年の会長・理事長の勤めを終わりました。退任してから四か月心に少しゆとりができたように思いますが、やめた当初は生活の急激な変化で家族や職員に迷惑をかけるのではないかと心配をしましたがやめても体の忙しいのは変わりませんでした。ただ精神的な苦痛感だけはなくなりました。それと子ども達に接する機会が増えたことで子ども達に癒されています。やはり年齢を重ねてくるといつも子ども達が手の届くところ

ろにいる自分を幸せに思います。

私が会長に就任したのは平成十六年、その年に福祉部の組織の一部が変わり福祉部の中に次世代育成成部が誕生し、最初の部長は国からの出向部長でした。まったく情報のない中で二年間人間関係が作れませんでした。就任を祝う会も拒否、退任する時も拒否、二年間何をしに來たのかかわらないそんな印象が残っています。その後二人の女性部長を間に挟み五人の部長さんに向き合ってきました。私はお酒が好きでしたからお酒の席に着いてくれた方とは腹を割ってということもしばしばでした。私の八年間は補助金の削減に始まり補助金の削減で終わりました。そして最後の一年は怒り心頭の一年でした。子ども達の幸せを考え行政としてどうあるべきかを我々組織と意見の交換をしていくの

が自身の肩書の役目ではないだろうか、しかし子ども達を真ん中に置いた話はどうとう一度も聞くことができませんでした。誠に残念な対応でした。

愚痴ばかりを言っていました。

ましたが一方では別のことも多くあった八年でした。十六年に会長に就任し、十七年には小田原市の公立保育園（現上府中保育園）の民間委託を受け、十八年にはまだ職員の整わない中で市の依頼を受け第三者評価を受審しました。短い時間の中で職員が力を合わせ取り組んでくれたおかげでマークをいただくことができ利用者の信頼も得られ公立の民間委託のモデルとしての役割を果たすことができました。そして十九年、県の行政改革推進の検討が始まり保育会の法人化を余儀なくされ翌二十二年に法人化検討委員会を立ち上げ一年をかけて検討を重ねその結果を会員に諮り一般社団法人神奈川県保育会が誕生しました、その後設立登記も完了し私自身も初代理事

長に就任することになりました。休む暇もなく二十二年度は神奈川県保育会創立五十周年相当の年にあたり、すぐさま実行委員会を立ち上げ自らが実行委員長となり大勢の先生方のお力添えをいただき、かつて過去に

経験のない周年行事の五十周年を素晴らしい記念事業として成功させていただきました。皆様のおかげと心から感謝を致します。いやなことこの多かったです。八

年でした。が五十周年は私にとつて引

き際の花道にしていただけたのかなと思っています。次の時代は若い人達に託しましたが、異論もあるかと思いますが長い目で見守ってやってください。ありがとうございます。

一般社団法人神奈川県保育会役員名簿

職名	氏 名	保育園名 (市名)	担 当
理事長	萩原 敬三	大原保育園 (伊勢原市)	
副理事長	宮田 丈乃	長井婦人会保育園 (横須賀市)	総務・事業担当、理事長職務代理者
"	伊澤 昭治	五反田保育園 (藤沢市)	組織・渉外担当、相談室運営委員長
理 事	岩澤 貞之	中海岸保育園 (茅ヶ崎市)	総務委員長
"	高木 睦子	長岡保育園 (横須賀市)	予算対策委員長
"	三崎たずゑ	つばみ保育園 (綾瀬市)	研修委員長
"	山本 昇	やまゆり保育園 (秦野市)	広報委員長
"	真壁 洋道	真土すばる保育園 (平塚市)	調査研究委員長
"	都築 顕道	山王保育園 (小田原市)	青年部長、調査研究副委員長
"	藤田 理恵	岡田保育園 (厚木市)	研修副委員長、相談室運営委員
"	渡部 俊賢	和順保育園 (横須賀市)	広報副委員長、相談室運営委員
"	富田 知敬	オランジェ (鎌倉市)	総務副委員長、青年副部長
監 事	小川 晃	松林保育園 (茅ヶ崎市)	
"	石野美保子	ふくざわ保育園 (南足柄市)	

(従来の専門部会は改組され、企画運営委員会の各種委員会に位置づけられた)

神奈川県保育会の皆様へ

神奈川県保健福祉局

福祉・次世代育成部長 大久保 雅一



一般社団法人神奈川県保育会の皆様には、日ごろから本県の保育行政の推進に多大なお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、県内では昨年度、安心こども基金の活用などにより、六〇六九人の保育所定員増が図られた結果、今年度四月一日時点での県内の保育所待機児童は二〇三九人と前年比一〇五六人減となり、四年ぶりに二〇〇〇人台まで減少いたしました。

しかしながら育児休業取得

後の職場復帰に伴う入所希望増や母親の就労希望の増により、依然として低年齢児を中心に保育ニーズが増大しており、先に実施した就学前の子どもがいる女性を対象としたアンケート調査においても、

保育所の入所申請を行わなかった保護者の四人に一人が「近くに認可保育所ができたから、すぐに子どもを預けたいと思う」と回答しているなど、認可保育所への潜在的保育ニーズも根強いことが伺えます。県では、引き続き市町村と連携して、保育所定員の拡充に努めてまいりますので、皆様のより一層のご協力をお願いいたします。

また、子どもを巡る環境としては、児童虐待の問題が依然深刻であり、平成二十三年度の政令・児童相談所設置市

を除く県所管域の児童虐待相談件数は一七四七件と直近五年間で四十四％の増加となっており、このうち乳幼児の割合は全体の四十三％を占めています。

こうした中、保育所においては、保護者支援を通じた虐待の未然防止とともに被虐待児の受入れ・見守りなど再発防止にもご尽力いただいているところです。今年度、県では保育所における児童虐待問題への対応につきまして、施設長から主任保育士、保育士などそれぞれの職に応じた研修を実施するとともに研修参加に伴う職員体制確保のための人件費補助をいたします。

また、地域の子育て支援のための地域育児センター事業を実施するための人件費の助成も行ってまいります。このような県の取組みをご利用いただきながら、今後とも、園児はもとより地域の子育て家庭を含めた保護者と子どもの支援に努めていただきますようお願いいたします。

保育制度をめぐっては、新

たな法案が国会で可決されましたが、県としても、節目節目で皆様への速やかな情報提供に努めるとともに、適切に国への提案の要望などを行ってまいりますので、よろしくお願いたします。

一般社団法人神奈川県保育会の皆様に神奈川県の子どものための健康やかな成長に一層のお力添えをお願いいたします。会員の各位の一層のご活躍をお祈り申し上げます。あいさつとさせていただきます。

祝 第56回全国保育研究大会 意見発表

平成24年11月14日(水)～16日(金) 沖縄大会

第6分科会 子育て、子育て支援のネットワークと保育所の役割

伊勢原市保育内容研究会

岩本美智子様 (大原保育園 保育士)

高野栄里子様 (リスブラン保育園 保育士)

フリー発表分科会 地域・家庭とはぐくむ 思いやり保育

露木省子様 (酒田保育園 園長)

応援をよろしくお願いいたします。

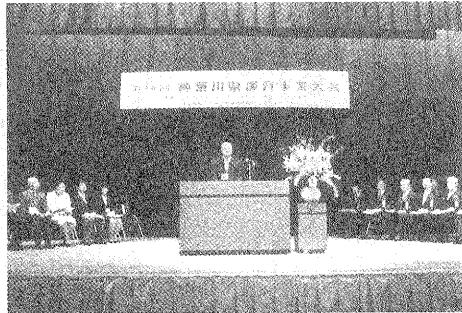
参加申込み締切は9月28日(金)です。お問い合わせは県保育会事務局まで。

第 46 回

神奈川県保育事業大会

～すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして～

神奈川県保育会のマスコットキャラクター「かなわん」も眩しく輝くほどの好天の中、伝統の神奈川県保育事業大会が平成二十四年四月二十八日に神奈川県社会福祉会館にて開催されました。県内各地域より大勢の方にご参加頂き、会場には七百余名の方々が集まり、非常に活気のある大会となりました。



式典は真壁総務部長の司会により進行され、宮田副理事長による開会のことばの後、はなのおさなご斉唱、児童憲章の朗読が行われました。続いて主催者を代表して都築理事長より「法人格を持った団体として歩みを始め、二年が

経過しました。この間、必要な整備を行いつつ、公共性と透明性に配慮した公益的な事業活動を展開して参りました。子どもたちのおかれている保育環境は、多様化の進む中で財政的な面においても社会的な面においても支援の不足が多種多様な姿で発生しています。そうした中で子ども達の健やかな成長と発達をしっかりと見守り、社会的な役割を果たすことを第一に考えて参ります。」などのあいさつがなされました。その後、永年勤続表彰者の六十六名が読み上げられ、賞状と記念品が授与されました。また、神奈川県保育賞を受賞された方々にも記念品が贈呈されました。引き続き、来賓の十八名の方を代表して大久保県福祉・次世代育成部長、持田県議会議長、尾上町村会副会長、松田県児童福祉審議会委員長、平野保育士養成施設協会会長よりそれぞれご祝辞を頂戴し、予定時刻通りに遠藤保育士会会長による閉会のことばにより終了いたしました。

第一会場

休憩を挟み、保育会定時総会が開催され、保育会役員改選の議案と平成二十三年度保育会事業報告及び決算、保育士の専門性を高める研修会事業報告及び決算の報告についての議題が審議されました。(定時総会の状況については、7面をご覧ください。)

午後からは三つの会場に別れ、各会場熱気に包まれた中で研究発表が行われました。

第一会場では、三つの研究発表が行われました。

最初の発表は、伊勢原市保育内容研究会による「子育て・子育て支援のネットワークと保育所の役割、多様な機関との連携と協働」をテーマに研究発表がおこなわれました。『伊勢原市次世代育成支援対策行動計画』に基づいた具体的な事業を調査し、今後の課題や取り組みについて子育て支援事業の拡充となるよう研究が進められていました。夏季保育体験・保育クラブの

活動・巡回相談等具体的な事業を研究する中で常に利用者の声に耳を傾け、その意見を生かし、より良い地域のネットワーク作りの為に情報を共有化することの重要性が感じられる内容でした。

続いて、愛川町保育内容研究会による「気になる子ども」の保育と家庭支援。楽しく園生活を送るために「～」をテーマに研究発表が行われました。気になる子どもへの支援を二つの事例を交えて問題行動をどのように対応していくか。子どもが安定する場所の確保、視覚からの教材として手作りカードの数々、事前予告のカレンダー等、子どもの立場で



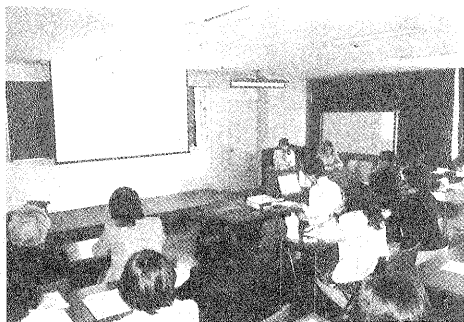
考えられたものを紹介されました。また、事例を通して保護者の心情を思いやることの大切さに気づかされたり、『保育者の困り感』子どもの困り感』かもしれないという言葉が印象に残りました。

最後に茅ヶ崎市保育士会内容研究会による「保育士の資質向上について」をテーマに研究発表がありました。研修の充実やチェックリストの作成で自己評価を行い自分の保育を見直すこと。そして、子どもの思いに寄り添い、個々がレベルアップして質の向上に繋げていきたいという思いが伝わってくる内容でした。

第二会場

第二会場では、「コミュニティの再生・子育て文化の創造に向けて、地域づくりに向けて保育所が果たす役割と取り組み」のテーマで横須賀市保育士会から『育つこと・育てることの大切さ』地域と保護者と共にあゆむ保育園になるために』と題して発表が

行われました。保護者や地域を対象に具体的な設問で実施したアンケートの分析を行い、分かりやすく説明をして頂きました。地域や保護者の思いや実態をつかみ、地域性に即した活動の実践に生かされていました。また、子育て・保育と食等の変遷を年表にし、子育て文化の継承を保育園が担うことでコミュニティの再生につながることを。将来、地域の担い手となる子ども達を保育園が中心になり地域と保護者と共に育てることで、全ての子育て文化を取り戻し、コミュニティの再生につなげることが可能となることに希望がもてました。



次に、フリーテーマで「園内研修・地域資源を利用した」について綾瀬市のつばみ保育園から発表がありました。地域資源の活用を目をつけ、訪問や交流を通して得た知識や経験を園内研修として職員全体に周知し、保育に生かしていく取り組みは大変参考になりました。また、地域に保育園の内容や取り組みを伝える良い機会にもなっていると思いました。

第三会場

第三会場は、フリーテーマで三題の研究発表が行われました。

まず、小田原市保育士会保育内容研究委員会より「育ちの中のアソビ」として、二年間で集められた数多くの事例をもとに、各園で親しまれている日常の遊びが年齢ごとに紹介されました。事例を取ることで普段から親しんでいる遊びを色々な視点から見ることができ、今まで気付かなかった子どもの姿や成長を感じ

事ができました。最後に、年齢に応じた保育者の言葉掛けや配慮を工夫する大切さを感じたとまとめられました。

次に、神奈川県保育士会保育内容研究会から、「子どもの口のはたらき」の見直そう口の働きの大切さ」のテーマのもと、昭和大学歯学部口腔衛生教室の弘中祥司先生を講師としてお呼びし、まず「食べる機能の発達」について学び、その後保護者と保育士からアンケート調査等を行い研究されたことの発表がなされました。参加者一同、改めて手づかみ食への大切さを知ることのできる内容でした。

最後に「運動遊び」元気な身体をつくらう」と題して、南足柄市保育士会内容研究会による発表がありました。運動で体得できる「大切な七つの力」を毎日の保育活動の中で無理なく取り組める方法を取り上げられ、具体的な遊びや簡単な作り方の実演もありました。乳幼児期に色々な運動遊びを経験することで基本的な運動能力の発達も見られ、

さらに挑戦意欲が高まったとまとめられました。



関プロ大会に、伊勢原市保育内容研究会が参加

全ての会場の研究発表が終了した後、保育会の役員、企画運営委員が集まり、「処理委員会」が開催されました。そこでは七月五日、六日、栃木県において開催される関東ブロック保育研究大会への参加グループの選出が主要議題とされ、審査の結果、「子育て・子育て支援ネットワーク」と保育所の役割」を発表した伊勢原市保育内容研究会が選ばれました。

平成二十四年度事業

計画・予算案を承認

―三月定時総会―

平成二十四年三月十四日、

神奈川県社会福祉会館において、神奈川県保育会三月定時総会が開催されました。

司会の眞壁洋道総務部長の開会宣言の後、出席者数が、定款に定める総会員の過半数を超えて、都築融光理事長の主催者挨拶があり、議長として、議事に入りました。

本日の総会には、議案一件、報告事項二件が出されており、その内容は、理事会で、総会提出案件として協議し、三月の企画運営委員会で審議・了承を得られたものを、総会資料として取りまとめ、全会員に事前配布されていました。

まず、議案の「平成二十四年度事業計画及び予算案」の説明が事務局からありました。事業計画では、平成二十四年度は、国の「子ども・子育て新システム」関連法案の国会提出や、国の「保育所の面積基準の取扱い通知」に基づく県条例制定に向けた準備な

ど、保育所の円滑な運営に影響を及ぼしかねない重大な問題が山積している年と位置付け、一般社団法人として、より公共性や透明性を求め、時代の要請に対応できる新しい保育会の構築を目指しながら、積極的な事業運営を推進していくこととしております。

具体的には、①新しい情報の迅速な伝達と意見・要望の表明、②多様化する保育ニーズへの対応、③保育園利用者相談室の有効活用、④保育事業大会の充実の四本の柱に沿って、各種事業を企画・実施していきます。

会議等の開催としては、年二回の総会、原則毎月の地区代表による企画運営委員会、理事会、専門的な立場から検討・協議する専門部会・専門委員会が設置され、それぞれの目的に沿った活動を行っていきます。

専門部会が実施する事業としては、

総務部は、四月の保育事業大会、七月の県市町村児童福祉主管課長と企画運営委員と

の連絡協議会、十一月の保育の日前夜祭等の開催を担当し、その他組織運営、行政への予算要望等を行います。

研修部は、保育園の総合評価や保育士等の資質の向上を図るために、新任保育士研修会、保育専門講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育所食育研修会を企画し開催します。これらの研修会には、政令市にも

参加を呼び掛け、県全体のレベルアップ等を図ることとしていきます。

調査研究部

は、保育事業大会の研究発表に関する指針やまとめ全般、関東ブロック保育研究大会や全国大会の総括、保育園の経営問題や制度改革等に係る調査研究等を行います。

広報部は、年

平成 24 年度月間予定表

月	県保育会の行事予定	関係団体の主要行事
4	・表彰選考委員会(9日/月) ・23年度監査(9日/月) ・委員会(11日/水)、部会(11日/水) ・第46回保育事業大会(28日/土) ・定時総会(28日/土)	・県社協新任保育士激励会(7日/土)
5	・委員会(17日/木)、部会(17日/木) ・「保育かながわ」78号発行	・全保協協議会総会(16日/水)
6	・全保協会長表彰選考委員会(11日/月) ・委員会(13日/水)、部会(13日/水)	
7	・保育園利用者相談研修会(23日/水) ・委員会(25日/水) ・県市町村児童福祉主管課長と委員との連絡協議会(25日/水) ・新任保育士研修会(26日/木)	・関東ブロック保育研究大会(5～6日)栃木県 ・食育推進研修会(23～24日)
8		・公立保育所トップセミナー(31～1日)
9	・予算対策協力金活動開始 ・委員会(12日/水)、部会(12日/水) ・保育専門講座Ⅰ	・関東ブロック保育事業連絡協議会(6～7日)相模原市
10	・委員会(10日/水)、部会(10日/水) ・「保育かながわ」79号発行	
11	・委員会(30日/金)、部会(30日/金) ・保育専門講座Ⅱ ・保育園利用者相談室研修会 ・保育の日前夜祭(30日/金)	・全国保育研究大会(14～16日)沖縄県
12	・委員会(12日/水)、部会(12日/水)	・神奈川県保育の日(1日/土)、 ・全国保育組織正副会長会議(13～14日)
1	・委員会(9日/水)、部会(9日/水) ・保育所食育研修会	
2	・委員会(13日/水)、部会(13日/水) ・保育専門講座Ⅲ	・全保協保育所長集中講座
3	・委員会(13日/水)、部会(13日/水) ・定時総会(13日/水) ・「保育かながわ」80号発行	・全保協協議会総会(13日/水) ・関ブロ保育士の専門性を高める研修会(5～6日)水戸市

【注】随時開催 ①理事会(正副理事長・理事会議)
②専門部会 ③専門委員会

三回の広報紙「保育かながわ」の企画・発行、ホームページの点検・更新等の運営を行います。

予算対策部は、国の保育事業の充実・強化や補助制度の改善等の要望を全国保育協議会と協力して行います。

専門委員会では、公立保育所専門委員会、民間保育所経

営問題専門委員会、食育推進委員会、表彰選考委員会で、それぞれ活動を続けます。

保育園利用者相談室では、保育園利用者等からの相談への対応を中心に、年二回の研修会の開催、参考図書配布等を行います。今年度から、第三者委員を、二名増員して五名体制にして、充実させて

います。

次に、平成二十四年度予算案ですが、収入の部では、保育会会員二百九十八園からの会費を始めとした会費収入七百四十五万円、県補助金等の補助金四百十三万余円、事業収入二百六十六万円等で、全体一千七百三十万余円の予算額で、前年度比九十六万円の減額となっています。

支出の部では、これらの金額を、管理費、事業費、研修・

新執行部体制がスタート

―四月定時総会―

神奈川県保育事業大会の式典終了後、十一時から、会場を四階の第三・第四研修室に移して、本会の四月定時総会が開催されました。

真壁洋道総務部長の開会宣言の後、委任状出席会員も含めた出席会員の数は、総会員の約六十六％と報告され、ほぼ満席の状態の中で、総会が始まりました。

まず、都築融光理事長の主催者挨拶に続き、定款に基づ

研究費、負担金・補助金等に編成されている状況の説明がありました。

都築議長が、質疑の後、採決に入り、議案は可決・成立いたしました。

次に、報告事項として、県の民間保育所運営費補助金削減問題への対応と保育園利用者相談室第三者委員の追加委員とそれに伴う関係規程の一部改正が報告され、総会は閉会されました。

議長を務める旨の発言があり、議事に入りました。

本日の議事は、議案が一件、報告事項が三件用意されていましたが、議事進行上の都合により、報告事項を先に行うことになり、報告事項ア「平成二十三年一般社団法人神奈川県保育事業報告及び決算について」、報告事項イ「平成二十三年度保育士の専門性を高める研修会（関東ブロック）事業報告及び決算について」を事務局から、総会資料に基づき、次のような説明がなされました。

平成二十三年度は、国の「子ども・子育て新システム」の制度化に向けた具体的な動きがある中で、昨年三月に発生した東北大地震に対しては、被災保育所復興のための義援金募集・送金の取り組みや、神奈川県補助金削減に対する対応等、当初予期しなかった多くの取り組みが行われた年でありました。

本会の通常の事業は、概ね年間事業計画どおりに実施する事ができ、収支決算については、収入済み額二千四百一万余円に対し、支出済み額二千三百四十六万余円となり、差引残額五十五万余円は、翌年度に繰越しされることになりました。

また、報告事項イは、関東ブロック保育協議会構成都県市による持回り研修会で、今回、本会が当番となって開催したものでした。

研修会は、二日間に亘り、横浜ワールドポーターズにおいて開催され、百六十二名という多くの受講者が集いました。この収支決算は、収入済

み額百六十二万円に対し、支出済み額は百十八万余円で、差引残高四十三万余円は、本会の特別会計に積み立てを行うことになりました。

次に、これらの収支決算に対し、四月十一日に監事監査が行われており、報告事項ウ「平成二十三年度会計監査報告について」を、小川晃監事から、「石野監事とともに、監事監査を実施し、いずれも適正に処理されていることを認め、監査意見書により都築理事長に報告した。」旨の報告があり、質疑応答を経て終了しました。

次に、議案の「一般社団法人神奈川県保育会役員の改選について」が審議されました。今回が、二年間の任期満了に伴う改選期であり、本会「定款」、「役員選任規程」に基づく手続きにより、理事会推薦の「理事及び監事候補者名簿」を四月の企画運営委員会承認を受け、会員に、事前配布を行っておりました。

都築議長の議案内容の説明の後、満場一致の賛成を得て、

議案が承認されました。

そこで、総会を休憩して、臨時理事会を開催して、理事長を互選し、総会を再開して、宮田理事から、「理事長職は萩原理事にお願いしたい」との結論に至った旨の報告があり、承認されました。

新理事、新監事が、会場正面に集合して、萩原新理事長から、就任挨拶後、副理事長、理事長職務代理者、理事、監事の紹介が行われ、総会の議事は無事終了しました。

その後、四期八年の会長・理事長職を勤められた都築前理事長、また、副理事長として六期十二年の長きに亘り、会長・理事長の補佐役として大役を果たし、今回退任された相馬宣正前副理事長に、宮田副理事長から、感謝の意を込めた豪華な花束が贈呈され、会場は大きな拍手の渦に包まれておりました。

なお、本会の新役員の執行体制は、2面の名簿のとおりですので、会員の皆さんの絶大なご支援とご指導をお願いいたします。

最低基準に関する意見書 神奈川県へ提出

八月二十八日、萩原理事長、伊澤副理事長が、神奈川県次世代育成課に出向いて、「保育所最低基準に関する意見書」を提出いたしました。

これは、児童福祉法の改正により、「都道府県は、児童福祉施設の設備及び運営について、条例で基準を定めなければならない。」とされたことを

受け、神奈川県では、年内に県条例を制定し、来年の四月一日施行を目指して準備を進めており、八月上旬には、県主催による保育所を対象とした説明会が開催されております。

この説明会の内容をもとに、県保育会会員から意見を募集してとりまとめ、上記の三項

1 居室面積及び職員配置について

居室面積につきましては、乳児室、ほふく室が併用されている場合は 2.475 平方メートルでよいと考えますし、保育士の配置につきましても、最低の基準として条例化することは良いと考えます。しかしながら、弾力的な運営におけること、面積の確保及び配置の考え方に端数が出ることに等において、市町村における弾力的な示しができるよう、「おおむね」や「以上」という文言を入れていただきたい。

2 開所時間の 11 時間について

開所時間の 11 時間につきましては、いつの間にか正式な説明もなく位置づけられた経緯があります。全国組織であります当会におきましても、全保協を通じて回答を求めているのですが、いまだに回答がないままです。この件につきましては、11 時間が明確になるまでは条文に記載していただきたくありません。

3 県所管内のみの条例化の考え方について

お示しをされました資料は、県所管内のみの資料でした。県内には、政令市 3 市と中核市 1 市がございます。このまま条例化の手続きが進みますと、県議会の関係が出てくると予想されます。県議会には、政令市 3 市と中核市 1 市から選出されました議員の方々がおります。政令市 3 市と中核市 1 市の条例化の資料が添付されておりませんと、比較できないばかりか、その議員の方々の意見の反映がなされないものと考えますので、是非とも、全県一区の考え方から、県所管域、政令市、中核市により手続きが進みますことを要望いたします。

目にとりまとめた、上記の三項目にわたる内容で、県次世代育成課あてに提出いたしました。なお、会員の皆様からいただいたご意見は、意見書の添付資料として、県に提出させていただきます。急なお願いにも拘わらず、多数のご意見をお寄せいただきありがとうございます。

現在、神奈川県では、「緊急財政対策本部」を設置し、来年度当初予算に反映するために早期の着手

が必要なテーマとして、「県有施設」「補助金・負担金」「人件費の抑制」等を取り上げて検討を行っており、保育所の運営に重大な影響を及ぼす事態も想定されます。

今後とも、会員の皆様のご

こんにちは、かなわんです

園児の皆さんお元気ですか。

かなわんも元気に県福祉会館で過ごしていますよ。皆がかなわんのことを忘れていないかとても心配だから園児の皆さんのところに遊びに行きたいと思っています。

そこで先生達にお願いがあります。保育園行事の時に、かなわんにお声をかけていただけないでしょうか。よろしくお願いします。

かなわんの貸し出しについて貸出先

神奈川県保育会会員園申込み

申込み用紙に記載をして神奈川県保育会事務局にお申込み下さい

意見等をお伺いしながら、神奈川県に対して、子ども達の健やかな育ちを保障する保育現場の生の意見や要望等を積極的に表明してまいりたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

費用

修繕積立金として

一回、三〇〇〇円

期間

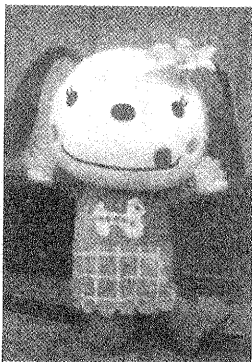
一週間以内に返却

返却時

必ず陰干しをして消臭剤等をかけてあげて下さい

かなわんについて！

かなわんは神奈川県保育会創立五十周年記念に製作された保育会のキャラクターマスコットです。



編集 後記

残暑お見舞い申し上げます。

異常気象のこの夏、灼熱の夏、皆様はいかがお過ごしになったのでしょうか？

保育園では、子ども達は毎日プール遊びに勤しんでいたことでしょう。

夏休み後の子ども達は、真っ黒に日焼けをしていて、いろいろな事を体験してきたのでしよう。ちよつと会わない間にビックリするほど逞しく成長をして登園をしてきましたよね。

我が広報委員会も前体制より引継ぎ新体制のもと初めての発行になりました。

広報委員会九名で試行錯誤を重ねて多くの皆様にお言葉をいただきより良い広報誌を発行していきたいと思っております。皆様のご意見・ご感想を沢山いただければ幸いです。

一期二年間よろしくお願致します。